2026 年度第3回　MH フォーラム

日　時：2026 年 10 月 26 日（月）14：00 ～16：30　　開催方式：対面リアル開催

会　場：(公社)日本包装技術協会　会議室　住　所：東京都中央区築地４－１－１　東劇ビル１０階

主　催：日本マテリアル・ハンドリング（MH）協会　　後　援：公益社団法人日本包装技術協会（JPI）

参加費：MH・JPI 会員＝ ５，５００円（税込）　・　一般＝ １１,０００円（税込）

14:00 | 15:00

①「自動倉庫の『隙間』を埋める、次世代物流ロボティクスの新常識」
4D Shuttle と Rack Bot™が解決する、従来型マテハンの死角物流補完計画

【講演者】株式会社 Rainbow Dynamics Japan

代表取締役 CEO　田中　純夫　氏

立体自動倉庫や他のストレージ型マテハンは優れたシステムですが、導入コストの高さ、レイアウト変更への追従性の低さ、そして「一度止まるとすべてのオペレーションがストップする」という致命的なリスク（死角）が存在します。 本講演では、世界的なトップ企業がこぞって導入を進める Rainbow Dynamics の 2 大製品（4D Shuttle / Rack Bot™）が、従来型システムの限界や隙間をどのように「埋めるソリューション」として機能するのか、その圧倒的な柔軟性とコストパフォーマンス、そして「モノ売り」ではない価値提供の神髄を解説します。

15:10 | 16:10

②小型商品物流の盲点
―「どう自動化するか」の前に「全体をどう最適化するか」を考える ―

【講演者】RAX　Solutions 株式会社

事業運営責任者（日本・韓国）　清水　卓　氏

物流自動化は、人の作業をそのまま機械に置き換えるだけでは十分な効果を生みません。特に小型・多品種商品では、コンテナ内の仕切り管理、棚入れ、在庫確認、ピッキングなど、装置導入前に見直すべき作業が多く存在します。本講演では、調剤薬局ロボットの経験と欧州・日本での産業用途展開を題材に、日本型の現場改善と欧米型のプロセス改革の違いを交えながら、小型商品物流に適した自動化設計の考え方を、具体例とともに紹介します。

16:10–16:30　**【質疑応答・名刺交換】**

日本 MH 協会　研修係行（メール：maruyama@jpi.or.jp　／　FAX：03-3543-8970）

2026 年度第３回 MH フォーラム申込書　□会員（MH・JPI）　□一般

（　↑　どちらかにチェックしてください　↑　）

貴　社　名	
所属・役職 / お名前	／
E-mail（必須）/ TEL	／　－　－
ご　住　所	〒

当会では個人情報の保護に努めております。詳細は当会ホームページ「個人情報保護方針」(https://www.jmhs.gr.jp/JMHS_Private.htm)をご覧ください。

【注　意　事　項】

・お申込みは１名ずつ行ってください。（メールアドレスの記載のない方は、参加受付が出来ません。）
・**定員３０名でございます。定員になり次第、締め切りますので、お申込みはお早めにお願いいたします。**
・研修内容に関するご案内のため、後日講演者から参加者に連絡がある場合があります。

※問い合わせ先：日本 MH 協会 Tel 03-3543-9335 研修係